

第1章

# 事業概要



# 事業概要

## 趣旨

現在、グローバル化が進展する中で、あらゆる分野で国境を越えた協力・調整・交渉が不可欠となっており、国際社会のみならず、地域社会等においてもグローバル化対応を牽引・指導するリーダーが必要となっている。「世界青年の船」事業は多様なバックグラウンドを持つ青年が参加し、各分野でリーダーシップを発揮して、社会貢献を行うことができる青年を育成することが趣旨で

ある。さらに、諸外国青年が集まる世界の縮図といえる環境で、共同生活をしながら、セミナーやディスカッション、文化交流の機会を提供することにより、相互理解や国境を越えた人的ネットワークの形成を促進し、人材育成面での国際貢献を行うことも目指すものである。

## 事業内容

本事業では、日本と世界の 10 か国の青年が、34 日間にわたる陸上、船上研修及び訪問国活動に参加し、世界的視野に立った共通の課題に関するディスカッションやセミナーを始め、各種の研修や交流活動を行った。

## 参加国

参加国は次の 11 か国で、これらの国から合計 240 名（外国参加青年 116 名、日本参加青年 124 名）の青年が参加した。

- ・オーストラリア連邦
- ・チリ共和国
- ・エクアドル共和国
- ・ギリシャ共和国
- ・ソロモン諸島
- ・スウェーデン王国
- ・タンザニア連合共和国
- ・トルコ共和国
- ・アラブ首長国連邦
- ・バヌアツ共和国
- ・日本

※以降国名は全て略称表記とする

## 使用船・寄港地

「世界青年の船」事業における船上研修は、商船三井客船株式会社が備船する「にっぽん丸」を使用し、その運航も同社に委託した。本事業では三つの地域で寄港地活動を実施し、給油・給水を含め五つの都市に寄港した。

### 寄港地活動

- ・那覇（日本・沖縄県）
- ・ダーウィン（オーストラリア）
- ・ブリスベン（オーストラリア）

### 給油・給水

- ・コロール（パラオ共和国）
- ・ホニアラ（ソロモン諸島）



## 事業の運営

明治 150 年記念「世界青年の船」事業では、32 名の管理部員が、管理官の指示のもと、事業に係る事務を行った。

管理官 駒形 健一 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付国際調整官  
副管理官 佐藤 将由 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付参事官（青年国際交流担当）付参事官補佐（青年交流第 2 担当）

管理部員 32 名  
《任務》 管理官は、本事業の実施に関し日本政府を代表し、本事業の実施に係る事務を統括する。副管理官は、管理官を補佐し、管理官に事故があるときは、その職務を代行する。管理部員は、管理官の命を受けて、本事業に係る事務を処理する。

また、各デリゲーション（参加国団）は、団員のうち 1 名をナショナル・リーダー（NL）とし、人数の多い日本については、加えて 1 名をサブ・ナショナル・リーダー（SNL）に任命した。ナショナル・リーダー及びサブ・ナショナル・リーダーは、管理官からの依頼に従い、事業前及び事業期間中、事業の円滑な実施に協力し、参加青年を統率した。

## 事業の準備日程

明治 150 年記念「世界青年の船」事業の日程は、次のとおりであった。

平成 30 年 6 月 30 日（土）7 月 1 日（日）、7 日（土）、14 日（土）、18 日（水）	日本参加青年選考試験
内閣府は、次の応募資格を満たしている応募者に対して書類選考を行った後、一次選考合格者に対して東京及び大阪において一般教養、英語及び人物に関する選考試験を実施し、123 名を二次選考合格とした。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 日本の国籍を有し、平成 30 年 4 月 1 日現在、18 歳以上 30 歳以下の者</li> <li>② 地域、職域、学校又は青少年団体等において、帰国後もその経験をいかして国際交流活動、青少年活動等を活発に行うことが期待できる者</li> <li>③ 心身が健康で協調性に富み、事業の計画に従って規律ある団体行動ができる者</li> <li>④ 日本の社会、文化、スポーツ等について相当程度の知識又は技能がある者</li> <li>⑤ 訪問国に対して関心と理解がある者</li> <li>⑥ 事業期間中、定められた活動を円滑に行うことができる英語力を有する者</li> <li>⑦ 事前研修、出航前・陸上研修、船上研修、帰国後研修の全日程に参加できる者</li> </ul>	
平成 30 年 8 月 2 日（木）～8 月 3 日（金）	訪問国政府担当職員等招へい会議
内閣府において訪問国政府担当職員等招へい会議を開催し、訪問国活動案について話し合いを行った。この会議の後、必要な事項について在外公館を通じて行政機関等と調整を行った。また、内閣府では、本事業にかかる支援業務の委嘱先である（一財）青少年国際交流推進センターを通じて当該国の担当者と調整しながら日程を作成した。訪問国先であるオーストラリアについては課題別視察先及び高等教育機関でのディスカッションを実施するための施設訪問先の選定を行った。	
平成 30 年 9 月 12 日（水）～9 月 16 日（日）	ファシリテーター会議
事業の円滑かつ効果的な実施を図るため、コース・ディスカッションを担当するファシリテーター 7 名の出席を得て、ファシリテーター会議を開催した。会議では、本事業及びコース・ディスカッションの趣旨や概要の説明を行い、事業の目的等について認識を共有するとともに、その運営について打合せを行った。また、ファシリテーターは 9 月 14 日から実施された日本参加青年の事前研修に出席し、日本参加青年に対してコース概要や事前課題を紹介するセッションをコースごとに行った。	
平成 30 年 9 月 14 日（金）～9 月 19 日（水）	事前研修（日本参加青年のみ）
本事業の効果的な目的達成を図るため、日本青年に事業の趣旨及び目的を十分に理解させ、日本代表としての心構えを養い、団体活動の基本等を習得させることを目的とし、国立オリンピック記念青少年総合センターにて合宿形式の事前研修を実施した。	

平成 30 年 10 月 10 日 (水) 地方プログラム受入都道府県担当者会議
内閣府は、平成 30 年 4 月、本事業外国参加青年を受け入れる 5 府県（宮城県、大阪府、三重県、徳島県、宮崎県）に対し、文書等により地方プログラムの際の各府県における表敬訪問、歓迎会、ホームステイ、施設見学又は文化体験等の企画を依頼した。これを受け、各府県はそれぞれ受入計画案を作成し内閣府へ提出した。平成 30 年 10 月 10 日、内閣府において、受入各府県の担当者の出席を得て、受入府県担当者会議を開催し、外国参加青年の受入計画について打合せを行った。内閣府ではその後、本事業にかかる支援業務の委嘱先である（一財）青少年国際交流推進センターを通じて各府県の担当者として調整しながら最終日程を作成した。また、各府県はホームステイ引受家庭の選定をするなど地方プログラム実施に向けて諸準備を進めた。
平成 30 年 10 月 15 日 (月) ～ 10 月 18 日 (木) ナショナル・リーダー会議
本事業をより円滑に進めていく上で、各国 NL と事前に連絡、打合せ、協議を行うことが望ましいとの視点から、事業に先立ち、NL のみを集めて会議を開催した。会議では、事業の目的、日本国内活動、生活一般、陸上及び船上研修、寄港地活動等について内閣府側から説明を行った後、各国 NL 間で、生活時間や生活規律、事業参加までの諸準備等、本事業実施に関する事項について熱心かつ綿密な討議が行われた。
平成 30 年 9 月 30 日 (日) ～ 10 月 5 日 (金) 訪問国活動事前調査 11 月 26 日 (月) ～ 11 月 28 日 (水) 国内寄港地活動事前調査
内閣府担当官及び支援業務の委嘱先である（一財）青少年国際交流推進センターの担当者が事前調査のため、寄港地であるオーストラリアのダーウィン、ブリスベン及び沖縄県那覇市を訪れ、寄港地活動の受入担当者等との打合せを行った。この事前調査で、寄港地活動の詳細な内容についての連絡・調整を行うとともに、寄港する港、訪問・見学先等を実際に踏査し、団体での移動や見学を行う際の問題点等について調査をした。上記事前調査の結果を踏まえ、更に受入担当者等と綿密に連絡を取り、内容等の調整を行った上で、支援業務の委嘱先である（一財）青少年国際交流推進センターが、訪問国活動日程を取りまとめた。
外国参加青年の選考
外国参加青年及び外国 NL 候補者の募集は、参加国を管轄する日本国在外公館長を通じて参加国政府に推薦を依頼し、日本国在外公館長は参加国政府と協議の上、候補者を内定し、内閣府青年国際交流担当室長が最終的に外国参加青年 106 名、NL10 名を決定し、事業を実施した。 外国参加青年 (NL を除く) の資格要件は、次のとおりであった。 ① 平成 30 年 4 月 1 日現在、18 歳以上 30 歳以下の者 ② 定められた日程の全期間を通して参加できる者 ③ 心身共に健康で、航海に耐えることができる者 ④ 本事業の趣旨・目的を十分に理解し、事業の計画に従って、規律ある行動ができる者 ⑤ 地域、職域、学校又は青少年団体等において、青少年健全育成活動への寄与及び国際交流の分野での活躍が期待できる者 ⑥ 大学レベルの議論等諸活動を円滑に行うことができる英語力を有する者 ⑦ 日本に対して関心と理解のある者 ⑧ 「世界青年の船」事業を含む内閣府青年国際交流事業の既参加青年でない者

事業の詳細日程							
日程		9:30-10:40	10:50-12:00	13:40-14:50	15:00-16:10	16:20-17:30	20:00-21:10
1/15 (火)		外国参加青年来日					
1/16 (水)		オリエンテーション、歓迎会					
1/17 (木)		地方プログラム (表敬訪問)					
1/18 (金)		地方プログラム (歓迎会、ホームステイ)					
1/19 (土)		外国参加青年：地方プログラム (ホームステイ) 日本参加青年：出航前研修					
1/20 (日)		外国参加青年：地方プログラム (東京へ移動) 日本参加青年：出航前研修					アイスブレーキング
1/21 (月)		開講式、全体オリエンテーション	コース、委員会、セミナー、その他の研修の説明	コース顔合わせ			委員会顔合わせ
1/22 (火)		都内視察					デリゲーション・ミーティング
1/23 (水)	地方プログラム	午前休	リーダーシップ・セミナー	委員会活動			レター・グループ活動
1/24 (木)		コース・ディスカッション①	課題別視察				委員会活動
1/25 (金)		スポーツ & レクリエーション①	午後休				
1/26 (土)		委員会活動	レター・グループ活動	デリゲーション・ミーティング	コース・ディスカッション②		オリセン退所説明
1/27 (日)		横浜へ移動		フリータイム	乗船		出航前オリエンテーション
1/28 (月)		心理学セミナー / 避難訓練		オープンシップ、出航式、横浜出港 [出港 16:00]			自主活動
1/29 (火)		管理官講話	デリゲーション・ミーティング	各国紹介セッションリハーサル	各国紹介セッション		自主活動
1/30 (水)		各国紹介セッション		船長講話	委員会活動	クラブ活動紹介	寄港地活動オリエンテーション
1/31 (木)		那覇 (寄港地活動)、出国手続き [入港 8:00、出港 22:00]					自主活動
2/1 (金)	船上研修	委員会活動	Peer-Learning セミナー紹介	コース・ディスカッション③	デリゲーション・ミーティング		ナショナル・プレゼンテーション (日本)
2/2 (土)		All-PY セミナー (テーマ：異文化理解)		公式写真撮影 & ブリッジツアー			レディース・ナイト & ジェンツ・ナイト
2/3 (日)		Peer-Learning セミナー①		クラブ活動 A-①	パラオ・オリエンテーション		消灯日
2/4 (月)		パラオ (給油・給水) [入港 8:00、出港 17:00]					ナショナル・プレゼンテーション (UAE)
2/5 (火)		スポーツ & レクリエーション②	デリゲーション・ミーティング	午後休			自主活動
2/6 (水)		All-PY セミナー (テーマ：リーダーシップ)		コース補講	クラブ活動 B-①		ナショナル・プレゼンテーション (トルコ)
2/7 (木)		クラブ活動 A-②		委員会活動	寄港地活動オリエンテーション		消灯日
2/8 (金)		ダーウィン (寄港地活動) [入港 8:00]					レセプション・ディナー
2/9 (土)		ダーウィン (寄港地活動) [出港 18:00]					ナショナル・プレゼンテーション (ギリシャ)

## 参加青年の活動単位

参加青年は、デリゲーション（参加国団）、レター・グループ、委員会、コース・ディスカッションの四つのグループに所属し、陸上及び船上研修で各種活動を行った。

### デリゲーション（参加国団）

日本以外の10か国については、1か国あたり約12名の代表青年で、日本はナショナル・リーダーとサブ・ナショナル・リーダーを含む124名の代表青年でそれぞれデリゲーション（参加国団）を構成した。

デリゲーション単位で行った活動は次のとおり。

- ・各国紹介セッション（自国の基礎情報を発表するプレゼンテーション）
- ・ナショナル・プレゼンテーション（音楽やダンスなどの文化を披露するパフォーマンス）
- ・クラブ活動（自国の文化を他国の青年に体験してもらうセミナー）の主催

### レター・グループ

陸上及び船上研修における活動の基礎単位として、参加青年はA～Kの11のグループに組織された。各グループは約20名の参加青年からなり、各グループを組織する際には、国籍、年齢、職業等に偏りのないよう考慮した。各グループには、NLが1名ずつグループ・リーダー（Group Leader: GL）として配置され、さらに、参加青年の中からアシスタント・グループ・リーダー（Assistant Group Leader: AGL）2名（うち日本参加青年1名、外国参加青年1名）を置く構成とした。

レター・グループ単位で行った活動は次のとおり。

- ・モーニング・アセンブリー（毎朝の集合、点呼、検温による体調管理）
- ・東京都内視察（日本参加青年による東京都内をめぐるツアー）
- ・レター・グループ・ミーティング（船上研修中の毎夕行われた情報共有の場）

### 委員会

参加青年間の交流を図り、相互の友好と理解を促進することを目的とする様々な行事・活動を企画、実施するために必要な業務及び管理部との連絡を行うため、次の八つの委員会が組織された。

- ・アドバタイズメント委員会
- ・イベント委員会
- ・All-PY セミナー委員会
- ・ナショナル・プレゼンテーション委員会
- ・アシスタント・グループ・リーダー委員会
- ・Peer-Learning セミナー委員会
- ・クラブ活動委員会
- ・寄港地活動委員会

日程	9:30-10:40	10:50-12:00	13:40-14:50	15:00-16:10	16:20-17:30	20:00-21:10
2/10 (日)	午前休		寄港地活動振り返り		委員会活動	自主活動
2/11 (月)	キャビン・チェンジ		公式写真撮影		委員会活動	ナショナル・プレゼンテーション(エクアドル)
2/12 (火)	All-PY セミナー (テーマ:自由)		委員会活動	Peer-Learning セミナー②		自主活動
2/13 (水)	クラブ活動 B- ②		コース・ディスカッション④		自主活動	ナショナル・プレゼンテーション(タンザニア)
2/14 (木)	スポーツ & レクリエーション③		委員会活動	寄港地活動オリエンテーション		消灯日
2/15 (金)	ブリスベン (寄港地活動) [入港 11:00]					レセプション・ディナー
2/16 (土)	ブリスベン (寄港地活動)					自主活動
2/17 (日)	ブリスベン (寄港地活動) [出港 19:00]					ナショナル・プレゼンテーション(オーストラリア)
2/18 (月)	午前休		寄港地活動振り返り		委員会活動	自主活動
2/19 (火)	All-PY セミナー (テーマ:自由)		クラブ活動 A- ③		デリゲーション・ミーティング	ナショナル・プレゼンテーション(チリ)
2/20 (水)	コース・ディスカッション⑤		Peer-Learning セミナー③		ホニアラ・オリエンテーション	消灯日
2/21 (木)	ホニアラ (給油・給水) [入港 8:00、出港 21:30]					ナショナル・プレゼンテーション(ソロモン諸島)
2/22 (金)	自主活動	委員会活動	事後活動セッション①			自主活動
2/23 (土)	Peer-Learning セミナー④		クラブ活動 B- ③		委員会活動	ナショナル・プレゼンテーション(スウェーデン)
2/24 (日)	エキシビション準備		エキシビション			自主活動
2/25 (月)	午前休		事後活動セッション②		デリゲーション・ミーティング	ナショナル・プレゼンテーション(バヌアツ)
2/26 (火)	サマリー・フォーラム準備		サマリー・フォーラム			自主活動
2/27 (水)	講義: 明治期から学ぶ先進的グローバルリーダー / 評価会		修了式	下船説明	フェアウェル・ディナー	
2/28 (木)	リエントリーセミナー	下船準備				
3/1 (金)	東京帰港 解散式・解散交歓会、下船 [帰港 8:00]			(外国参加青年は空港へ、日本参加青年は帰国後研修へ)		
3/2 (土)	日本参加青年帰国後研修					

船上研修

## コース・ディスカッション

コース・ディスカッションは、「青年の社会貢献」を共通テーマとし、世界的視野に立った共通の課題に関するディスカッションを実施した。参加青年の希望に基づき、次の七つのコースに振り分けた。テーマに関連する分野で活躍するファシリテーターがそれぞれのコースを担当し、参加青年のディスカッションをリードした。

- ・ 平和な世界をつくるための教育コース
- ・ お互いを高め合う実践型エンパワメントコース
- ・ グローバル・シティズンシップコース  
～多文化共生時代の地球市民になるために～
- ・ グローバルヘルスコース  
～予防可能な疾病と世界の健康・保健～
- ・ 国際協力コース
- ・ 情報とメディアコース
- ・ ソフトパワーと青年外交コース

## 第2章

# 事業の実施

